



2015年11月発行 文責:新潟支部事務局長 関根芳美  
Tel.0258-83-3048 Fax0258-83-3049 メール niigata@sanno-uda.jp

### 平成 27 年度定期総会を開催しました。

6月27日(土)午後2時より小千谷市産業会館『サンプラザ』にて開催。

進行役の監事の中村正樹氏より開会を宣言、支部長の桐生達子氏より挨拶。続いて、来賓の自由が丘産能短大校友会会長の平石俊夫氏、新会員・大塚純一氏の紹介がありました。



桐生支部長を議長とし、議事録作成人を監事の山崎ひろみ氏とし、議事はスムーズに進行。今回承認された会則の変更により、在校生でも校友会に入会することができるようになりました。これにより、校友会会員の確保を図るとともに、現役学生と交流やスムーズな連携を図っていきます。

その他、前年度の事業報告、収支決算報告・監査報告がなされ、次年度の事業計画、収支予算も満場一致で承認されました。



定期総会終了後、短時間で小千谷を楽しみながら学ぶ「ギュッと小千谷アカデミー」を開催。内容は右のページで紹介しています。

### 卒業を祝う会を開催しました。

「ギュッと小千谷アカデミー」終了後、再び『サンプラザ』に戻り、午後6時より開催。

卒業生のお2人、大塚純一氏、西脇拓氏を迎え、学位記授与、一言いただいた後、乾杯となりました。

大塚氏は定期総会から参加してくださいましたし、写真館を営む西脇氏は、小学生の佐渡への修学旅行に同行した後小千谷に駆けつけてくれました。嬉しい限りです。

イケメン2人を囲み、懇親会が盛り上がったのは言うまでもありません。今後、新潟支部に新しい風が吹きそうです。



西脇拓氏

大塚純一氏

今回の「産能にいがた」に、お2人から寄稿いただき掲載しています。入学のきっかけや人となり、学びへの思いの伝わる寄稿です。皆様ぜひ、ご覧ください

### ギュッと小千谷アカデミーの様子

#### 30分で学ぶ小千谷縮

#### 小千谷織物組合

小千谷織物組合に勤務する佐藤恭子さんは、市内の中学生向けに小千谷縮に関する講話をしているそう。今回、お願いしてその講話をしていただきました。

当日の佐藤さんは小千谷縮をバッチリ着こなして登場。

百聞は一見にしかず…

初めて見る方にも小千谷縮の涼やかな魅力が伝わりました。

中学生向けのわかりやすい言葉で、小千谷縮の歴史、小千谷縮が出来るまでの数多くの工程などの説明がありました。

講話の後は、サンプラザの「織の座」や「匠の座」をご案内いただき、

2020年五輪へのユニフォーム素材採用への取り組みについてもご紹介いただきました。



#### おぢや震災ミュージアム「そなえ館」

#### 楽集館

『サンプラザ』を後にして、「そなえ館」に向かいました。

団体予約して、スタッフの和田恵子さんから約1時間

ご案内いただきました。

和田さんのご自身の中越大震災の被災体験も交えた説明が素晴らしい!

改めて「そなえ館」の意義を感じたのが、当時の状況を風化させないための説明だけでなく、今後の災害にどのように備えるかという視点が多く盛り込まれていた点です。中越大震災の経験を基に、新たに考案された防災グッズや行政の取り組みなどを知ることが出来、非常に有益な学びの機会となりました。



#### 河井継之助・岩村精一郎 会見談判の間

#### 慈眼寺

「そなえ館」の後、慈眼寺に向かいました。

小千谷市の慈眼寺は、維新史上、最も壮烈な北越戦争に突入するきっかけとなった「小千谷談判」の場所。西軍の岩村軍監は談判に取り合わず、継之助は「長岡藩士」を全うして散ります。

見学予約の電話の段階では、テープの再生による説明の予定でした。ところが当日、ご在宅だった住職から直接お話を聞くことができました。

写真奥に西軍の岩村精一郎が座り、継之助は手前の座布団位置に座っていたか…あるいは、継之助はふすまをまたがず手前の部屋から、伏してお願いしたのかもしれないとのこと。

慈眼寺には、遠方からも「継之助ファン」が訪ねてくるそう。

また、「貴寺にあるべき」と継之助にゆかりのある品が自然と集まるとか。

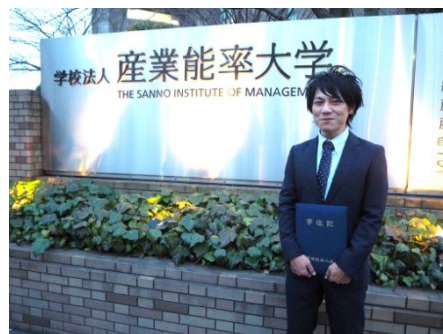
平成16年の中越大震災で、「会見談判の間」も甚大な被害を受けたが、全国から支援があり、無事に復旧。震災後に再び訪れた方も「変わってなくて安心した」と喜んでくれるそうです。



## 卒業生からの寄稿①

『自分が変われば相手が変わり人生が変わる』

見附市 大塚 純一



私が産業能率大学に入学した理由、その全ての始まりは、私が長く会社でイジメにあってきた事がきっかけでした。

21年前、私は今の会社に入社し、大きな夢と希望を胸に真面目に一生懸命に働きはじめました。しかし、現実には毎日のように上司のイジメにあい、誰からも助けてもらえず、一人、車の中やトイレで泣いている日々でした。いつ会社を辞めようか？考えていた頃、次々に若い仲間や同期の仲間が辞めていき、ついに若い社員が私一人になりました。

「私も明日会社を辞めよう」・・・そう思った時、私が1番尊敬している友人に辞表を提出する前日に言われた、ある言葉がきっかけで人生が大きく変わります。

その言葉は、「あなたが今、会社を辞めたら会社を去った若い人達と同じで、会社に負けた事になる」。「自分の実力をつけ、会社や上司から逆に会社を辞めないでくれと言われる位、実力をつけてから辞めなさい」。私はその瞬間、ふと気がつきました。

「私が実力をつけ、会社や上司から認めてもらえる存在になれば、私が上司になり、これから将来入社してくる若い人たちがイジメにあわなくて済む」。しかし、そのためには何をしたら良いのか？周りを認めさせるにはどうしたら良いのか？

私は考えた結果、「今後10年間の3つの人生設計」を立てました。

第一に国家資格など様々な資格を取得する事。第二に売り上げ成績（\*私は営業マンのため）で毎年1位を取る事。最後に大学で経営を学び、経営者と社員両方の立場に立って物の見方や考え方を知る事により、将来、経営者と社員のパイプ役になる事。

この3つの人生設計を立てたのが、11年前。この11年間、もちろんイジメが簡単になくなる事はなく、本当に辛く大変な毎日でした。しかし、今は違います。私の3つの人生設計は、全て達成する事ができ、今では営業部のリーダーになる事ができました。その事により、会社も考えが変わり、若い社員も何人も活躍しています。

「自分が変われば相手が変わり人生が変わる」。

たった1度きりの人生、私はこれからも挑戦し続け、更に進化（深化）し続けていきたいと思えます。最後に4年間、産業能率大学で1番学んだ事、それは私にとっての財産はお金ではなく「人」という事でした。

## 卒業生からの寄稿②

『「けじめをつける」から「自分を高める」へ』

新潟市 西脇 拓



2015年3月に卒業を迎えました、西脇拓と申します。祖父の代から続く写真館の3代目です。

大学中退の私が産能に入ったのは、大学を卒業してけじめをつけるためでした。

写真屋の仕事をする上では、大学を中退していることが足を引っ張るようなことはありませんでしたが、やるべきことを途中で投げ出してきたことへの引け目を感じている自分をどうにかしたいという強い気持ちが心にありました。

実際に産能で学習してみて、効率的に単位を修得できる仕組みと、充実した学習内容に、光を見出した心地がしました。また先生方の手厚いご指導のおかげで、さらに充実した学びが得られたと感じています。一見、私の写真屋の仕事は産能の学習内容とはあまり関係のなさそうに思われますが、全くそんなことはありませんでした。学習したことを活用して新事業を確立させ、多くのお客様にお喜びいただくことができています。なにより、自分がどうあるべきか、なにをするべきか、ということを考えそして行動する力が備わったと自負しております。

「けじめをつける」ために始まった産能での学びでしたが、素晴らしい仲間や先生方のおかげで「自分を高める」ための学びに進化し、私にとって、非常に価値のあるものとなりました。

そして、今度はこうして校友会の皆様仲間に加えていただくことになり大変光栄です。

さらに学びを深めるとともに母校の発展のお力になればと思います。



### ～お知らせ～ 今後の支部のイベント

- 3/13（日） 本学から秋山兼夫先生をお招きしての講演会  
（自由が丘産能短大校友会定期総会にて）
- 6/18（土） 産能大通教校友会新潟支部定期総会  
～6/19（日） 高柳町にて かやぶきの里・和紙体験